

令和 5 年度

運営に関する計画

最終評価

令和 6 年 2 月 26 日

大阪市立南住吉小学校

目指す子ども像	自ら学び、深く考える子 健康で、たくましい子	ねばり強く、最後までやりとげる子 みんなで力を合わせてがんばる子
学校教育目標	「一人ひとりのよさや可能性を伸ばし、確かな学力を基盤として生きる力を育む教育活動を推進する」	

1 学校運営の中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- (1) 安全・安心な教育環境の実現
 - ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。
- (2) 豊かな心の育成
 - ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。
 - ・「自分に良いところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- (1) 誰一人取り残さない学力の向上
 - ・全国学力・学習状況調査における平均正答率の向上をめざす。
- (2) 健やかな体の育成
 - ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の向上をめざす。

【学びを支える教育環境の充実】

- (1) 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進
 - ・1人1台端末を活かした学びの充実を図る。
 - ・児童の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見と迅速な対応に努める。
- (2) 人材の育成としなやかな組織づくり
 - ・働き方改革を推進し、過度な勤務時間の延長を防ぐ。
- (3) 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進
 - ・P T Aや地域による学校支援の取り組みを推進する。
 - ・地域学校協働活動を進める。

令和4年度の総括と今年度の課題

現状と課題

昭和 33 年に開校した南住吉小学校は、多くの地元民から愛され地域の小学校としてその役割を担ってきました。最近は、子どもの数が減少し、大阪市の小学校でも再編統合や一貫校への編成替えが進んでいますが、本校は学校選択制を利用した校区外の入学希望者が増加し、住吉区で最も児童数の多い大規模校となっています。多くの児童を抱える本校においては、例えば、家庭でのネット環境の違いや配布プリントの煩雑さ、更には様々な家庭環境による対応の難しさなど、困難な状況が多くみられます。また、いじめ問題については、暴言等への対応の充実が求められ、日常的な会話や遊びの中にみられるいじめ行為への指導体制の充実が課題として認識されています。このような現状に鑑み、今後は全教職員の意識を高め「チーム南住吉」として全員が学校を運営しているという思いを持ちたいと考えています。昨年度、配置された体育の専科指導加配や主幹学校司書に加えて、本年度は副校長の配置が実現しました。引き続き、大阪市教育委員会や住吉区役所等からのご支援をお願いするとともに、児童の健全育成を目標に教職員が一丸となって取り組んでいくことを強く決意しています。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

1. 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目で肯定的回答の割合の90%以上を維持させるとともに更なる向上をめざす。
2. 望ましい集団の育成に向けて、学年のまとまりを高める取り組みを学期に1回以上行う。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。

学校園の年度目標

1. 小学校学力経年調査における「国語」の基礎欄の標準化得点を前年度より向上させる。
2. 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を増加させる。
3. 小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を増加させる。
4. 小学校学力経年調査および本校が行う児童生活振り返りアンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を増加させる。
5. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、各種目の計測値の向上をめざす。

【続き】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

1. I C T の活用に関する目標を次のように設定する。
 - ・デジタル教材を活用した朝学習を週 1 回以上実施する。
 - ・学習者用端末を活用した家庭学習を学期に 1 回以上実施する。
 - ・協働学習支援ツールを用いた学習を学期に 1 回以上実施する。
2. 教職員の働き方改革に関する目標を次のように設定する。
 - ・年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 70% 以上にする。

学校園の年度目標

1. 授業と家庭学習で学習者用端末を活用する回数を前年度以上にする。
2. 「心の天気」「相談申告機能」等の利用頻度を高め、 I C T 活用を推進する。
3. 主幹学校司書と連携を強化し、授業での学校図書館利用を増やし、読書指導を進める。
4. 働き方改革を進め、残業時間の軽減を図る。

(様式 2)

大阪市立 (学校園名) 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・学校)</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。	
<p>学校の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」の項目で肯定的回答の割合の 90%以上を維持させるとともに更なる向上をめざす。2. 望ましい集団の育成に向けて、学年のまとまりを高める取り組みを学期に 1 回以上行う。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】 ⑤いじめへの対応 <p>本校の「いじめ防止基本方針」を提示するとともに「南住吉小学校安心ルール」を周知させ、全教職員と児童、保護者が理解したうえで、いじめの未然防止といじめ対応を行う。また、暴言等の日常生活の中で行われるいじめ行為について、教員の問題意識を高め、対応を強化する。</p>	B
指標 <p>「いじめについて考える日」に全校集会を開き、校長からいじめに対する講話をを行う。また、各教科横断的にいじめにかかわる授業を毎学期、「思いやり週間」を学期に1回行うことで、いじめに対する考え方を深化する。年間の教育活動を通して、規範意識の醸成や仲間を認め合う集団育成を行い、いじめを生みにくい環境づくりに努める。また、教職員に対しては、学期に1回いじめに関する研修会を開催する。</p>	B
取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】 ⑥不登校への対応 <p>不登校の児童が登校しやすい学校環境を作る。また、関係機関との連携強化に努める。</p>	B
指標 <p>不登校の児童やその家庭と密で丁寧な連携を図るとともに、関係諸機関とも協力し、児童や家庭に寄り添い、児童に合った登校の形を組織としてできる限り実現する。</p>	B
取組内容③【1、安全・安心な教育環境の実現】 ⑦問題行動への対応 <p>「南住吉小学校安心ルール」にのっとり、問題行動への適切な対応を行うとともに、問題行動の未然防止に努める。</p>	B
指標 <p>「南住吉小学校安心ルール」を年度初めに児童や家庭に周知し、年間を通して組織的にルールにのっとった一貫した指導を行う。また、児童には毎学期始めにルールを再確認するとともに、日々の生活指導にそのルールを適応する。また、問題行動が起きないよう、毎学期「生活点検週間」を実施し、本校が特に大切にする10のルールの意識付けを行い、規範意識の醸成を行う。</p>	B
取組内容④【1、安全・安心な教育環境の実現】 ⑧児童虐待等への対応 <p>家庭との連携を密にし、ヤングケアラーやネグレクトを含む虐待等についてカウンセリングマインドを持って対応する。また、区役所や子ども相談センター等の関係機関との連携を強める。</p>	B
指標 <p>児童の日々のようす（行動、発言、服装、体へのあざなど）を、しっかりと観察し、気になることがあれば職員間で連携して対応する。また、関係諸機関とも連携をとりながら、対応にあたるようにする。</p>	B
取組内容⑤【1、安全・安心な教育環境の実現】 ⑨防災・減災教育の推進 <p>警備及び防災計画に基づき、消防署・警察署・区役所と連携し、防災に対する児童の意識を高める。また、各教科と関連付けて、防災・減災教育を進める。</p>	B

<p>指標</p> <p>火事、不審者、地震・津波への避難訓練を学期に1回以上実施する。また、教職員の防犯意識を向上させるために警察と連携し防犯に関する研修会を実施する。</p>	
<p>取組内容⑥【2、豊かな心の育成】</p> <p>◎人権を尊重する教育の推進</p> <p>様々な体験活動を通じて「自他ともに大切である」という心情を培う。また、暴言等を含めて、人が嫌がる行為をしないという教育を徹底する。</p>	B
<p>指標</p> <p>戦争体験談、車いす体験、視覚障がい体験など、全学年で体験的な学習を計画的に実施する。道徳・総合等で、マイノリティ（障がい者教育、国際理解教育、外国人教育など）を理解・尊重する学習を計画的に実施する。年2回以上、人権教育研修に参加し、指導者の人権意識を高める。</p>	B
<p>取組内容⑦【2、豊かな心の育成】</p> <p>◎インクルーシブ教育の推進</p> <p>インクルーシブ教育を推進させるため、支援の在り方を工夫する。また、自校通級のモデル校として、通級指導の研究・実践を行う。</p>	B
<p>指標</p> <p>児童理解の研修会や個別の支援計画の活用、実践報告、支担会および学年会への参加を計画的に行う。また、自校通級指導の研修会を行う。</p>	B
<p>取組内容⑧【2、豊かな心の育成】</p> <p>◎キャリア教育の充実</p> <p>キャリアパスポートを利用し、年間を通してキャリア教育の充実を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>キャリアパスポートを学期初めに書くことで達成できる目標を設定し、学期終わりには振り返りを行うことで、自分の成長に気づき、自己有用感を高める。また、大きな行事を記載することで、行事を通して協力することや他者のために頑張ることの良さに気づけるようにする。</p>	

【安全・安心な教育の推進】

年度目標の達成状況や取り組みの結果と分析
① 「いじめについて考える日」には学校長の講話を聞いたり、その週にいじめがテーマの道徳教材を学習したりするなどして、いじめは許される行為ではないことを学ぶことができた。さらに、学期に1回「思いやり週間」を実施することで、言葉遣いを考えながら話したり、相手の気持ちを考えて行動したりすることができるようになってきた。また、教職員への研修会も毎学期に開催され、学級経営で大切なことや、いじめを未然に防ぐ方法などを深化することができた。
② 不登校児童やその保護者と連携をとり、その児童に合った登校方法や登校環境をできる限り実現することができた。また、関係諸機関とも連携を図り、対応することができた。
③ 「南住吉小学校安心ルール」を教室で掲示したり、保護者に啓発したり、職員間で連携して対応にあたったりと、学校全体で一貫した指導を行うことができた。また、「南住吉10のルール」の浸透と徹底を図るために、生活目標とリンクさせて朝会で全体指導を行ったり、毎学期生活点検週間を実施し児童の意識付けを行ったり、児童会が呼びかけや取り組みを行ったりと、様々な方向から指導や取り組みを行うことができた。その結果、児童自身の規範意識を醸成することができた。
④ 担任を中心に学年団で児童のようすを観察し、記録することができている。また、それらの気づきを生活指導部会や職員会議で情報共有し、児童や保護者へ対応することができている。また、記録を公式に保管することで、いつでもだれでもがそれらの情報を閲覧できるようにしている。そして、それらの記録を引き継げるようになっている。
⑤ 1学期は火災、2学期は不審者、3学期は地震と津波と、学期に1回計画的に避難訓練を実施することができた。火災では消防と、不審者では警察と連携し、より専門的な視点で児童にも職員にも避難訓練の助言をいただき、より有意義な避難訓練を実施することができた。また、1月には石川県で大きな地震が起きたこともあり、児童自身より危機感をもって取り組むことができた。また、教員対象に警察からの不審者対応の研修が開催され、職員により一層安心な学校づくりを進めていく意識や具体的な策をもつことができた。
⑥ 児童に対しては、感染症の流行により中止となったものもあったが、ソンセンニムとの交流会、車椅子の乗車体験、点字学習など、各学年の実態に合わせた体験的な学習を行うことができた。道徳や総合的な学習の時間を通して、外国人教育や特別支援教育など、マイノリティを大切にする人権学習を行うことができた。6年生が主体となって、折り鶴集会・修学旅行報告集会を行うことで、児童全員で平和の意義について考える機会をもつことができた。教職員に対しては、住吉区の人権実践交流会や3区合同人権教育講演会への参加を通して、研鑽を深めることができた。また、1月には、「いのちの授業」について外部講師を招いて校内研修を行っていただいた。
⑦ 児童理解の研修会や自校通級指導の研修会を行い、支援のより良い在り方を検討した。また、学年会や支担会で児童の状況や課題を共通理解し、インクルーシブ教育の推進に努めた。
⑧ キャリアパスポートを学期始めや終わり、大きな行事の前に活用することで、適時自己の目標設定とその振り返りを行うことができた。そして、児童自身が自分の課題に気づいたり、成長を感じたりすることができていた。さらに、高学年では将来を見通したキャリア教育も充実させることができた。
次年度への改善点
① 今後とも、児童に対しては「いじめについて考える日」の取り組み、「思いやり週間」、教職員のいじめは許さないという一貫した指導を行っていく必要がある。また、教職員は児童自身やその児童を取り巻く人間関係の変化に気づく人権感覚の涵養や、いじめが起きにくい学校・学年運営を進める力の研鑽、いじめが起った場合の迅速で適切な対応力の向上を図るとともに、教職員に対する研修も継続していく必要がある。

- ② 今後とも継続して、不登校児童とその保護者、また関係諸機関と連携し、登校しやすい方法や環境を整えていく必要がある。また、学級に登校できている児童が、不登校児童の気持ちを考えるなど、お互いの立場の双方向から不登校を改善していけるように取り組んでいく。環境的に可能であるならICTを活用し、リモートで学習に参加したり、学級の児童と交流できたりする場を確保していくことも検討していく。
- ③ 規範意識やルールの意識付けを職員間で連携しながら今後も一貫した指導を行い続けていく必要がある。また、学校目標や校訓を意識した指導や取り組み、児童の課題に応じた取り組み、児童から発信し改善していける取り組みなども行い、ただ、教員からの注意・指導で終わるのではなく、児童自身が規範意識をもって行動することの素晴らしさを感じていけるようにする。
- ④ 今後も児童のようすを注意深く観察し、変化に気づくと学年団を中心に学校全体で連携し、迅速に児童や保護者対応していけるようにする。また、状況に応じては関係諸機関とも連携し対応していく必要がある。
- ⑤ 今後も計画的に、また実践的に避難訓練を行っていく必要がある。児童にとって自分たち自身の命に関わることであるととらえ、より真剣にそして迅速に取り組んでいく必要がある。また、その都度の実態に応じた対応をさらに検討し、教職員間で共通理解を図っておく。警察の方の研修会は、有意義なものだったので、今後とも内容を検討しながら続けていってもよいだろう。
- ⑥ 児童に対しては、今後も豊かな人権感覚を育めるよう、体験的な学習や道徳・総合的な学習を行っていく。そして、その学びを普段の学校生活に生かしていけるように指導・啓発していく。また、教職員に対しては、外部の研修会への参加を促すとともに、得られた学びを共有できるような場を設けられるようにする。
- ⑦ 自校通級指導のモデル校として、通級指導の体制づくりやより良い通級指導の在り方を検討していく。また、引き続き児童理解の研修会や通級指導の研修会を行うとともに、学年会や支担会で児童の状況や課題を共通理解し、インクルーシブ教育を進めていく。
- ⑧ 児童の実態によっては、振り返りなどが難しかったりする場合があるので、用紙の形式であったり、活用方法を検討し、児童の実態に応じたより教育効果の高いものになるよう工夫していく必要がある。

(様式 2)

大阪市立 (学校園名) 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 50%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校学力経年調査における「国語」の基礎欄の標準化得点を前年度より向上させる。 2. 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を増加させる。 3. 小学校学力経年調査における「英語の勉強は好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を増加させる。 4. 小学校学力経年調査および本校が行う児童生活振り返りアンケートで「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を増加させる。 5. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、各種目の計測値の向上をめざす。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】 ⑤言語活動の充実 国語科を要として、言語活動の充実を図る。また、各学年で身に着けたい基礎・基本的な学習事項（漢字・読み取る力・計算領域）を定着させる。	C
指標 基礎・基本的な学習事項について、考課テストで80%の児童が8割以上を取れるようとする。	
取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】 ⑥「主体的・対話的で深い学び」の推進 自分の考えを持ち、豊かに交流できる子どもを育てる。 授業はもとより、あらゆる教育活動を通して、コミュニケーション能力や読解力の向上に努める。	B
指標 授業の中でペア学習やグループ学習を積極的に取り入れるよう工夫する。	
取組内容③【4、誰一人取り残さない学力の向上】 ⑦英語教育の強化 新しく配属となったC-NETおよび中学校からの英語加配の先生との連携を強化し、小学校教員として英語教育に主体的に取り組む。また、モジュール授業、絵本・DVDなどの教材を有効に利用し、英語に親しむ機会を増やす。	B
指標 ・教員が日常会話の英語を活用できるように年1回以上の研修を行い、共通理解を図る。 ・週2回のモジュール授業の計画と実施、絵本・DVDの活用を進める。	
取組内容④【5、健やかな体の育成】 ⑧体力・運動能力向上のための取組の推進 専科指導教員と担任との連携を強化し、専門的な指導を取り入れた効果的な体育指導を行う。また、すべての児童が運動に親しむ機会を多く持てるように工夫する。	B
指標 ・学期に1回全学年で運動に親しむ機会を設ける。	
取組内容⑤【5、健やかな体の育成】 ⑨健康教育・食育の推進 手洗いや清潔なハンカチ・ティッシュを携帯する習慣を身につけさせる。 栄養・給食指導を通して、好き嫌いなく食べることの大切さを理解させる。	B
指標 ・学期に一回強調習慣を設ける。 ・年2回、栄養指導の時間を設ける。	

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標の達成状況や取り組みの結果と分析
① 低学年を中心にのびっこ時間の活用や学習サポーター、タブレットを活用し、漢字や基本計算の定着を図ることができたしかし、目標であった80%には届かず、次年度以降も継続して行う必要がある。
② 全体を通して授業での発問の工夫、ペア学習、グループワーク発表を行うことで主体的な考えを表現できるようにした。結果、活発な対話やコミュニケーション能力の向上がみられた。
③ 低学年は週二回のモジュールや絵本等を活用して計画通りに実施できたとともに、児童に意欲を持たせることができた。高学年ではC-NET及び中学校からの英語加配職員との連携を行うことで、より専門的な評価や授業を行うことができた。一方で日常会話からの英語の取入れに課題が残る。
④ 専科指導教員と連携し、児童が専門的な内容を楽しみながら学ぶことができた。また、全校児童による運動週間を通して主体的に運動に取り組むことができた。
⑤ 毎学期の手洗い週間などで手洗いを意識することができた。栄養指導も各学年2回行い食に関して学びを深めることができた。
次年度への改善点
① 引き続き基本的学力の反復練習や自主学習の推進を行うとともに、個人の支援指導を充実させて定着を図り、学習意欲を高める工夫を行いたい。
② 継続してペアやグループの活動を増やし、読解力を向上させたり、意見交流ができる場を設けたりして自信をもって発表できる機会を作っていく。
③ 教員がより英語の理解に努められるよう研修を広めつつ、モジュールやDREAMの活用にも力を入れていく。
④ 引き続き、専科教員と担任が連携し取り組んでいく。また、学期に一回の取り組みも継続して行い児童の運動に対する興味・関心を高めていきたい。実施時期・期間については検討が必要。
⑤ 今後も継続して手洗い週間などで指導していくとともに保護者にも啓発していく。また、ハンカチ・ティッシュを携帯していない児童が一定数いるので清潔調べ等を通して継続的な声掛けをしていく。

(様式 2)

大阪市立 (学校園名) 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>1. 学習者用端末を活用した授業の回数を増やす。 2. 学習者用端末を活用した家庭学習の回数を増やす。 3. 教員の勤務時間の改善を図る。</p>	B
<p>学校の年度目標</p> <p>1. 授業と家庭学習で学習者用端末を活用する回数を前年度以上にする。 2. 「心の天気」「相談申告機能」等の利用頻度を高め、ICT活用を推進する。 3. 働き方改革を進め、残業時間の軽減を図る。 4. 若手教員の育成に努め、研修の充実を図る。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ⑤ICTを活用した教育の推進 各教科の取り組みとして、児童一人ひとりの学習理解度や課題に応じたデジタルドリルやオンデマンド教材等の充実を図る。また、双方向オンライン学習の実施に向けて、授業配信を目標に試行を続ける。	B
指標 • 授業にICT（デジタルドリルやオンデマンド教材等）の活用を積極的に取り入れる。	
取組内容②【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ⑥データ等の根拠に基づく施策の推進 児童の学習・生活の様子や教員の指導状況など、可視化できるダッシュボードを活用し、問題の迅速な対応や個に応じたきめ細やかな指導をめざす。また、「心の天気」「相談申告機能」「いじめアンケート」等の機能を活用し、生徒指導に役立てる。	B
指標 • ダッシュボードの活用を習慣化する。 • 「心の天気」の入力を習慣化させる。	
取組内容③【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ⑦働き方改革の推進 教員の働き方改革を推進し、少しでも教職員の負担が軽減できるように、大阪市教育委員会との連携強化や大阪教育大学との連携を模索する。	
指標 教職員の負担軽減を図るために、仕事量の軽減とそのための人的・経済的支援について検証する。 • 小学校専科指導加配により、本校では高学年を中心に体育の専科授業を行う。また、教科担任制の導入に向けて積極的に取り組む。 • 大阪教育大学と連携し、大学院生の実習受け入れを行う。また、実習とは別に、音楽指導の補助として大学院生を市教委の学びサポーターや住吉区学校補助スタッフとして採用し成果を検証する。	B
取組内容④【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ⑧教員の資質向上・人材の確保 若手教員の育成に努め、教頭や新任研担当教員、メンターによる研修の充実を図る。また、「チーム南住吉」を意識し、学校行事を含めたあらゆる教育活動での協力体制の充実に努める。	
指標 • 教頭を中心に管理職による若手教員への研修機会を、学期に1回以上実施する。 • 新任研担当教員による日々の研修を充実させ、個別指導に加えて4名の新任教員に対するグループでの振り返り指導を、毎月行う。 • 2年目・3年目の教諭を含めた若手教員への研修を、メンターをリーダーとして学期ごとに実施する。 • 学力向上支援チーム事業のスクールアドバイザーと連携し、2年目、初任者の研究授業を行い、授業力の向上をめざす。 • いじめ対策への指導力強化を目指して、全教員による校内研修を学期ごとに行う。	B

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標の達成状況や取り組みの結果と分析
① 各教科の授業において、デジタル教科書の使用やデジタルドリル・調べ学習での学習者用端末を活用するなどICTを活用した教育を推進できた。ただし、学級によって活用頻度などに差がある。
② 「心の天気」や「いじめアンケート」の入力については習慣化することができた。しかし、「相談申告機能」やダッシュボード機能の活用は、進んでいない。
③ 体育・音楽・理科などの専科教員の配置により、高学年の負担は軽減が進んだ。低学年は専科教員なく、空き時間がないため軽減ができなかった。学年により働き方改革の進捗に差が生じる結果となった。また、教員不足は慢性的であり、教職員の仕事は依然として多く、働き方改革の推進については課題が残った。
④ 研修については、概ね計画に沿って進めることができ、メンターを中心とした研修を通して、若手教員の育成に努めた。一方、新任指導教員が学期途中から担任代行となったこともあります、きめ細やかな育成までとはいわず、学級経営についての研修や若手教員への個別指導については不十分な点もある。
次年度への改善点
① 児童一人ひとりの学習理解や課題に応じた教育ができるように、デジタル教科書やデジタルドリルの効果的な活用について研鑽していく。ICTを活用できる環境を充実させるために、電子黒板などのICT機器の拡充を進めていく。双方向オンライン学習の実施方法や活用については検討が必要である。
② ダッシュボード機能の効果的な活用についての研修を行った。研修したことを活かし、次年度からの児童理解に向けて活用を進め、問題の迅速な対応や個に応じたきめ細やかな指導を行っていく。
③ 個別対応が必要な児童が増えており、人員の確保を進めていく。特に低学年については、担任・支援担当以外にフリーで動ける人員を配置するなど、軽減に向けて人員の確保が急務である。また、教職員の仕事の量の差や学校行事・校務分掌などを見直して精選し、縮小・廃止するなど改革を進めていく。
④ 若手教員の負担にならないよう配慮しながら、今後も学ぶ機会を充実させ育成を進めていく。また、育成担当以外も普段の授業の様子を参観し、学級経営や授業について助言するなど、学校全体として育成に努めていく。